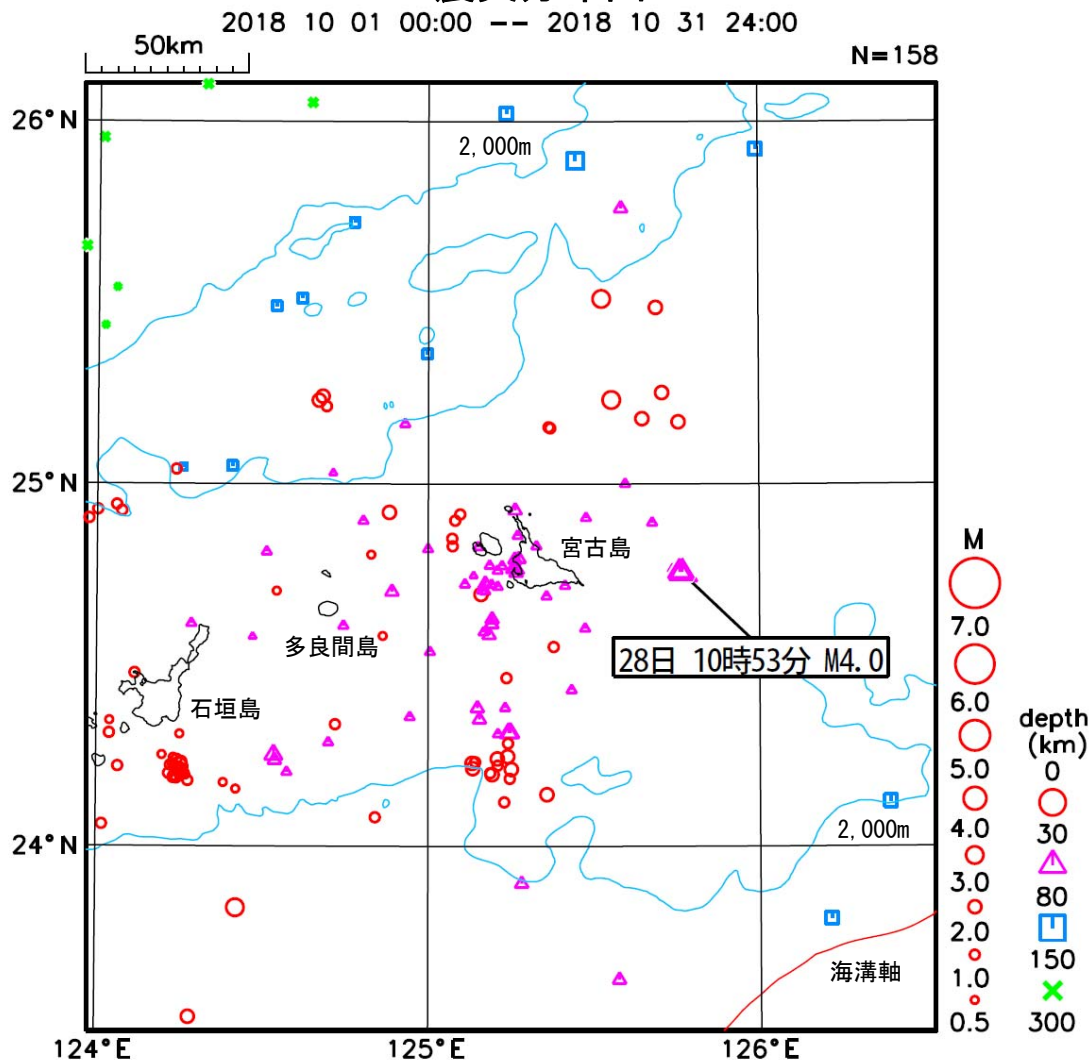


宮古島地方の地震活動図

2018年（平成30年）10月

宮古島地方気象台

震央分布図



図中の記号 M : マグニチュード depth : 震源の深さ
N : 地震の回数（マグニチュード0.5以上の回数です。）
管内で震度1以上を観測した地震を吹き出しで示しています。

【概況】

今期間、宮古島地方で観測した地震は158回（9月297回）で、震度1以上を観測した地震は3回（9月3回）でした。

23日13時34分に与那国島近海で発生した地震（M6.1、深さ26km）により、与那国島で最大震度3を観測したほか、多良間村で震度1を観測しました（震央分布図範囲外）。

24日01時04分に与那国島近海で発生した地震（M6.3、深さ28km）により、与那国島で最大震度3を観測したほか、宮古島市と多良間村で震度1を観測しました（震央分布図範囲外）。この地震により宮古島、八重山地方に緊急地震速報（警報）を発表しました。宮古島地方に緊急地震速報を発表したのは、2018年3月1日に西表島付近で発生した地震（M5.6、深さ15km）以来です。

28日10時53分に宮古島近海で発生した地震（M4.0、深さ32km）により、宮古島市で最大震度1を観測しました。

宮古島地方で震度1以上を観測した地震の表(期間:10月1日~31日)

震源時 各地の震度	震央地名	緯度	経度	深さ	規模
2018年10月23日13時34分 沖縄県	与那国島近海	23° 57.3' N	122° 35.7' E	26km	M6.1
震度 3 :	与那国町久部良, 与那国町役場*				
震度 2 :	石垣市平久保, 石垣市新栄町*, 与那国町祖納, 竹富町黒島, 竹富町船浮 竹富町上原*				
震度 1 :	多良間村塩川, 石垣市登野城, 石垣市新川, 石垣市美崎町*, 竹富町大原 竹富町波照間				
2018年10月24日01時04分 沖縄県	与那国島近海	23° 58.1' N	122° 36.1' E	28km	M6.3
震度 3 :	与那国町久部良, 与那国町役場*				
震度 2 :	石垣市登野城, 石垣市平久保, 石垣市新栄町*, 石垣市美崎町*, 与那国町祖納 竹富町大原, 竹富町黒島, 竹富町波照間, 竹富町船浮, 竹富町上原*				
震度 1 :	多良間村塩川, 宮古島市城辺福北, 石垣市新川, 石垣市伊原間*				
2018年10月28日10時53分 沖縄県	宮古島近海	24° 45.4' N	125° 45.7' E	32km	M4.0
震度 1 :	宮古島市城辺福北, 宮古島市平良狩俣*, 宮古島市城辺福西*, 宮古島市下地* 宮古島市伊良部長浜*				

*の付いた地点は気象庁以外の震度観測点です。

※ 資料中のデータについて

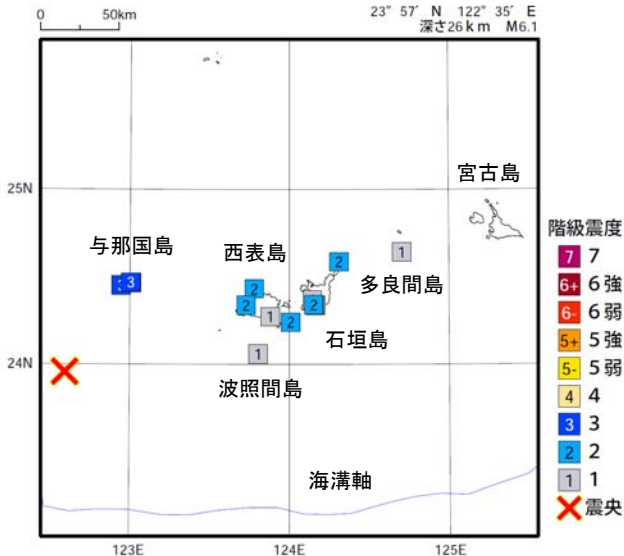
この資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震緊急観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※ データについては精査により、後日修正することがあります。

宮古島地方で震度1以上を観測した地震の震度分布図

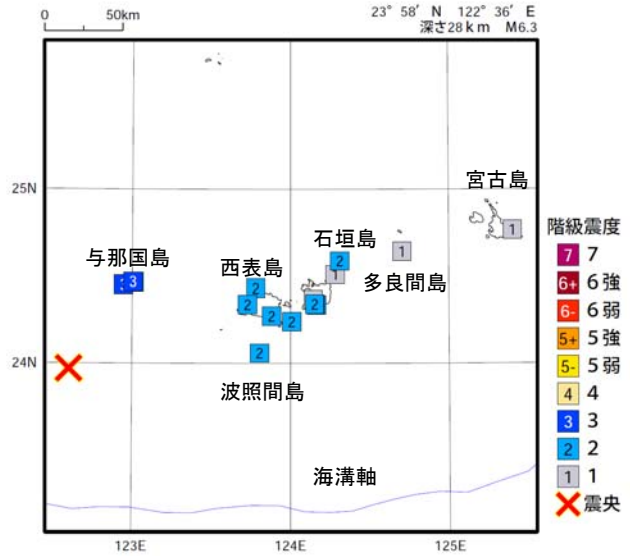
2018年10月23日13時34分

与那国島近海の地震の震度分布図



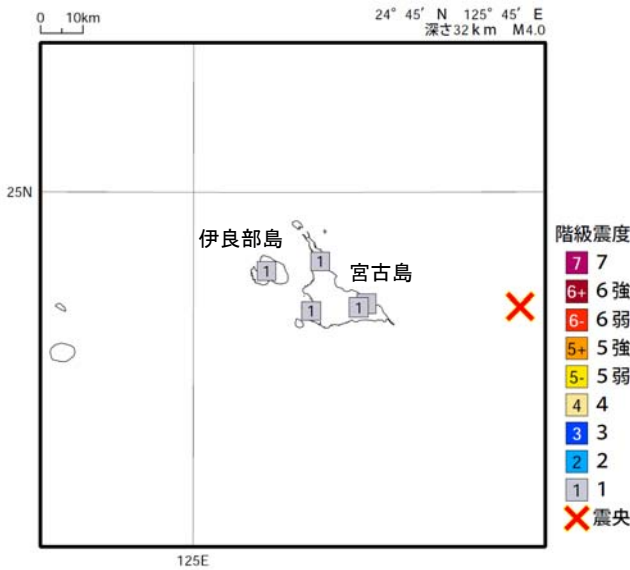
2018年10月24日01時04分

与那国島近海の地震の震度分布図

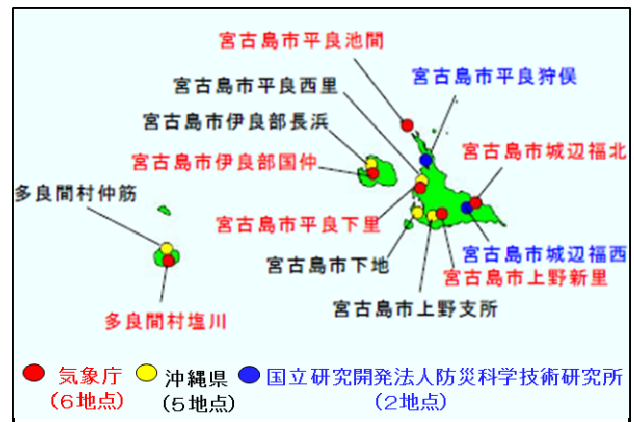


2018年10月28日10時53分

宮古島近海の地震の震度分布図



宮古島地方の震度観測地点



過去の地震活動は宮古島地方気象台のホームページで閲覧できます。

URL <https://www.ima-net.go.jp/miyako/katsudo/katsudo.htm>

本件に関する問合せ先 宮古島地方気象台 電話0980-72-3054

(地震・津波に関する出前講座を実施しています。)



津波防災の日

11月5日は「津波防災の日」です。これは、安政元年（1854年）の安政南海地震により発生した津波が和歌山県を襲った際に、濱口梧陵という人物が暗闇の中で稲に火を点けることで、人々を避難誘導し命を救ったという逸話「稲むらの火」にちなんで決められました。

「津波防災の日」には全国で地震や津波に備える防災訓練やイベントが実施されます。



内閣府「稲むらの火と津波対策」から

日本では過去に、何度も津波による甚大な被害を受けています。被害を少しでも小さくするために、津波の特徴を知って身を守る行動を取れるようにしましょう。

津波の特徴と身を守るためのポイント



津波警報を見聞きしたり、強い揺れや弱くてもゆっくりとした長い揺れを感じた場合は、ただちに高台や津波避難ビルなどへ避難しましょう。



津波は沿岸の地形等の影響により局所的に高くなる場合があります。ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう。



津波は長い時間にわたってくり返し襲ってきます。津波警報が解除されるまで避難を続けましょう。